

キャンドルの集いの進め方

	内容の例
入場・整列	静かに入場し、燭台を囲み座る。
第1部 迎え火の集い【時間：15分程度】	
①はじめの言葉 【司会】	「ここ青少年海の家にも、夜のとばりがおりてきました。しばらく、波の音や風の音に耳を傾けてみましょう。(間)この静かで、恵まれた自然の中で、友達の豊かな心確かめ合い、友情を深めていきましょう。それではキャンドルの集いを始めます。」
②歌	「遠き山に日は落ちて」「夕焼け小焼け」など ※2番からハミング
③火の神様 入場	ハミングに入ると、火の神様が手燭を持って入場し、燭台を1周する。 ※「火の神様」と呼ばれて、登場しても良い。
④火の神様の言葉	「みんなの心を一つにし、共に囲む理想の火、それがキャンドルの集いです。暗闇の中、明々と燃える炎は、多くの感動を私たちに与えてくれることでしょう。 今夜はこの火を囲み、歌や踊り、ゲームを楽しんで、今よりもっと仲の良い友達になってください。 『心を開き、心を結び、大きな大きな友達の輪を』そんな思いを込めてキャンドルの集いを盛り上げていきましょう。」
⑤点火	火の神様が代表の研修生に分火を行い、中央の燭台に点火。
⑥歌	「燃えろよ燃えろ」など ※火の神様は歌の後、所定の場所に着席し、活動を見守る。(もしくは退場)
第2部 交歓の集い【時間：60分～90分程度】	
レクリエーション	全員で歌や踊り、ゲームをして楽しむ。 班・クラスからの出し物 など ◇ゲーム：「猛獣狩り」「木こりとリス」「ジェスチャーゲーム」「こんばんはゲーム」 など ◇ダンス：「マイムマイム」「オクラホマミキサー」「ジェンカ」 など ※人数によっては、割り当てられた活動部屋でできないものもあるため、事前に確認が必要。
第3部 送り火の集い【時間：10分程度】	
①火の神様の言葉	「みんなでロウソクの炎を見つめ、この宿泊体験を振り返ってみましょう(間) その一枚の絵を、この素晴らしい宿泊学習の体験と共に生涯もち続けてください。」
②歌	「今日の日さはさようなら」など ※2番からハミング
③火の神様 退場	ハミングに入ると、火の神様は燭台を1周して退場
④終わりの言葉 【司会】	「私たちのキャンドルの集いも終わる時を迎えました。 このつどいで築いた友情と力を明日からの生活の中に活かしてください。 皆さんが、1つにまとまり、大きく発展していくことを願いながら、キャンドルの集いを終わります。」
退場	静かに退場する。

● 留意事項

- (1) 大まかな流れについては、あらかじめ説明しておく。
- (2) 司会進行を研修生にさせる場合は、事前に指導しておく。
- (3) 分火の仕方
火が点いていない者が傾け、火が点いている物から分火を受ける。
移動する際は、周りに気をつける。
※溶けた蠟で火傷をしないように気をつける。

